

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200342
法人名	医療法人陽成会
事業所名	グループホーム ヒロセドワーエ
所在地	今治市国分7丁目5番11号
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を念頭に置き、利用者様一人ひとりが主体的により良い生活ができるよう支援しており、職員もそれぞれ研修などで自己研鑽に励んでいる。
また、体調不良時等にはクリニックや病院への連絡が取れ、安心感につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第59番札所国分寺に程近く、田園風景の中を行き交うお遍路さんに出会う地域に立地し、開設3年目を迎えた。母体法人は今治市内で地域医療を担う医療機関で、市内に特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウスなどを運営している。母体病院との万全の協力体制に加え、医療従事者の常駐する老人保健施設や経験を重ねるグループホームが向かいにあり、利用者や家族、従事する職員にも心強い安心感へとつながっている。近隣に住宅のほとんどない土地であるが、地域の代表である地区総代や民生委員には力強いサポートを得られている。開設以降続けている毎月の家族会の開催、家族アンケートの実施からは、日頃の交流に加え良好な関係づくりへの取り組みが実感でき、お世話になっているからこそ言いにくい家族の本音を引き出す工夫がある。今後は改善課題や職員のスキルアップに向けた取り組みながら、利用者とゆったり向き合う時間を確保し、グループホームならではのケアへとつながることに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセドゥーエ

(ユニット名) オリーブ

記入者(管理者)

氏 名 別府 真由美

評価完了日 平成 29 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念である「相手を思いやる和の心と誠意を持って接する」と、グループホームの理念である「地域と共にあなたと共に笑顔の暮らし」を毎日の朝礼時に唱和し、職員間で意識付けを行っている。利用者様が笑顔で安心して暮らせるよう、家庭的な雰囲気づくりを大切にし個別ケアに努めている。 (外部評価) 基本理念と共に事業所独自の理念を開設時より大切にしている。職員は朝礼時に唱和し、意識付けを行っている。地域での笑顔ある暮らしの支援に向け、系列事業所と共に協力し合い地域交流を図っている。検討すべき課題について気付きを持ち、謙虚な姿勢で改善へと取り組み実践へとつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭や文化祭への参加。小学生下校時の見守り隊として地域の方と交流を図っている。 (外部評価) 田園地帯に立地するため、地域住民との気軽なご近所関係の構築が難しい一方で、先行する老人保健施設やグループホームへ協力いただく地域の代表である地区総代や民生委員のサポートに恵まれている。小学生の登下校の見守りや保育所との交流はあるが、今後はさらに身近な関係を構築したいと希望し、地域行事には積極的に参加する姿勢がある。今後も地域資源を活かした取り組みなど、事業所ができることを通し地域貢献にも大いに期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の勉強会を行い、地域に向け活かしてる。また、関連事業所と連携し災害時連携等、地域の方と行っていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホームでの近況報告、情報交換を行い、サービスの向上に努めている。 (外部評価) 家族、民生委員、地区役員、婦人会、高齢介護課職員の参加協力を得て開催している。参加者は運営推進会議への理解が深く、運営に関する関心が非常に高い。事業所からの利用者状況や活動報告だけでなく、感染症対策、防災対策、認知症ケアなど細部にわたる意見が交換され、出された意見やアイデアを運営に盛り込むことでサービスにつなげている。	運営に直結する意見交換の場として有意義に会議は進行されているが、参加者が固定化の現状にあり、参加呼びかけを多方面に広げて欲しい。家族アンケートでは会議の存在について理解できていないことが浮き彫りになっており、参加してみたいと思わせるような魅力的な会議の開催などを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて、日頃の取り組み、意見交換を行い、質の向上に努めている。 (外部評価) 高齢介護課職員には運営推進会議に参加を得ており、運営に対する理解を得ている。会議では質疑応答に対し、具体的なアドバイスをもらったり、相談があれば行政としての意見を得ているなど、関係は密になっており強固な連携が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修や勉強会を行い、法人全体で拘束しないケアを実施し、利用者様の安全に配慮しながら、自由に暮らせるよう支援している。 (外部評価) 法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修や勉強会の機会を設け、職員の正しい理解へとつなげている。事業所へのアクセス道路は車の交通量もかなり多いため、デンキ等を用いたセキュリティ設備を活用した安全対策をとっているが、職員が見守っている時は開放するなど、利用者や家族には説明し理解を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待行為の認識を深め、職員一人一人が自覚を持ちケアに努めている。また、少しの変化にも気付く事ができるよう、職員同士注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を活用されている利用者様おられるも、十分理解できていない事もあるため、勉強会などに参加し深く学んでいきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず2名以上で説明、契約を行っている。 また、利用者様、家族様の不安や疑問点を十分に話し合い、ご理解・納得していただける介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族様の面会時や電話にて日常の様子をお伝えし、意見や要望をお伺いしてる。また、意見箱の設置やアンケートを実施し、サービスの改善に努めている。 (外部評価) 利用者からは生活の中で意見や要望を聞いている。家族との良好な関係づくりには、電話連絡や面会時の会話、毎月開催される家族会を活用し、意見や要望を伺う機会としている。開設時より継続する家族アンケートは、無記名で実施することで、普段は言いにくい率直な意見が聞かれている。事業所が取り組むべき課題に気付きを持ち、運営に反映させるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の全体会、グループホームでのミーティングにて意見交換を行い、全職員が発言できる機会を設けている。また、意見を反映し、質の向上に努めている。 (外部評価) 職員は幅広い年齢層の構成で、経験を問わず互いの関係を認め合っている。管理者は職員の力量を見極めながら、状態に応じて相談や助言を行い、優先すべきは利用者であるという気持ちにぶれがない。1階を管理者が、2階を計画作成担当者が阿吽の呼吸でまとめ、両者共に職員と同じシフトに就いているため、実情や思いの理解が深い。法人は就業環境の整備に努め、給与水準や休日、ストレスチェックなど職員がやりがいを持てるよう支援しており、今年度より人事考課も取り入れる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に参加し、職員と意見交換する機会を作っている。ストレスチェックの実施ややりがいのある職場環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 積極的に研修に参加し、意見交換を行うなど、交流を図り、個々のスキルアップ、ケアの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的開催される交流会に参加し、意見の共有と交換を行うことで、サービスの向上に努めている。また、同業者との交流を深め、ネットワーク作りを行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者様のこれまでの生活や思いを汲み取り、安心して居心地良く生活できる場となるよう、ご家族様や担当ケアマネージャーと協力し合い、良い関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、ご家族様の要望や意見を聞き、不安や困っているときはその都度対応できるような雰囲気作りをし、信用していただけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当ケアマネージャーと十分に話し合い助言を受け、入居対象者が検討している。本人様、家族様とも面談する時間を設け、他のサービス情報も提供できるように支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や洗濯などの家事において、自発的に行動できる場面作りに努めている。一緒に過ごしながら共に支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や面会時等に、グループホームでの生活状況や希望などを伝え、家族との絆を大切にし、利用者様本人に教えて頂いたり、助けて頂いたりする場面作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方の面会、趣味やしたいことをできる限り継続してできるよう支援してる。 (外部評価) 入居時に基本情報などを収集し職員間で共有し、本人の馴染みの関係や場所について理解している。事業所周辺に居住していた利用者もあれば、離れた場所からの利用者もあり、事業所での生活の中で生まれた利用者同士の新たな関係を良好なものへつなげようと努力している。家族や知人の面会の機会を大切にし、これまでの関係が途切れることなく継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外食、ドライブレク、食事会等行い、利用者様同士が交流を持ち、楽しく笑顔になるよう係わり合い、支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された後もご家族様へのフォロー、相談、支援を継続し、関係性を大切にしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様とコミュニケーションをとり、一人ひとりの思いや意向を尊重している。また、思いを伝えられない利用者様には、表情や仕草から察したり、筆談したりしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、介護計画作成時には本人の希望をアセスメントシートにまとめ更新している。利用者の半数は認知症状の進行により思いを伝えることが困難な状況にあり、これまでの関わりの中での経験や記録、また家族協力を得て利用者本位のケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族様から情報収集を行い、ご本人様にも生活歴等を聞き、生活環境やこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様の現状把握に努め、1日の流れに沿って暮らせるように努めている。また、体調変化があった場合は、速やかに医療機関に報告し受診できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の気付きシートとケアプランを連動してる。本人様や家族様の意向を聞き、カンファレンスを実施し、介護計画と日常ケアの経過観察に努めている。 (外部評価) 職員担当制を敷き、担当職員が介護計画の作成、モニタリングまでの一連を担当することで流れをよく理解している。介護計画の見直し時には、利用者や家族とカンファレンスを開催し、意見や要望を話し合い議事録にまとめている。介護記録、経過記録シート、目標に沿った実践記録が的確にまとめられ、内容も充実し評価できる。	実践記録は必要な情報を端的にまとめ、介護記録に実践時の様子が詳細に記載されている。介護計画書と連動する一連の流れが大変スムーズで高いスキルを感じ取れる。根拠あるモニタリングへの材料が揃っているだけに、サービスを実施できたかできなかったかの評価になっている面が惜しまれる。利用者目線で達成可能な目標になっているか、解決すべき課題に対し具体的な記載になっているか再考して欲しい。記録を分析することで本人の満足度や達成感につながるやりがいある介護計画の作成へとつなげて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの日常生活の中での様子や変化など、個別記録に記入している。また、実施記録表に実施できているかを一目でわかるように記入し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の老健との交流を図っている。また、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近接の国分寺や綱敷天満宮へ参拝している。保育所の園児との交流や地区の自治会主催の行事にも参加している。地域との交流を図り、利用者様が安全で安心した暮らしが送れるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関との連携図れており、希望者は定期的な訪問診 療を受けることができる。24時間緊急体制取れている ため、急変があれば迅速に対応でき、安心感に繋がっ ている。また、本人希望のかかりつけ医とも連携を図り、 本人様に会った医療が受けられるようにしている。 (外部評価) 母体法人である医療機関をかかりつけ医とし、医療連携 体制として訪問看護ステーションを利用した日々の健康 管理には安心感が持てる。老人保健施設に常駐する看護 師からサポートを得られるため、緊急時対応が心強い。 往診は月1回から2回へと改定され、細目な医療アプ ローチが期待される。急変時の対応について、わかりや すいフローチャートを作成し、認識不足による対応の遅 れがないよう改善に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の状態変化見られた際は記録に残し、職員間で 報告、共有している。また、医療機関や訪問看護ステー ションとの連携図り、受診ができるようにしている。2 4時間医療機関との連携が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中も主治医と連携し、必要な情報交換を行い、早期 退院に向け話し合っている。退院後も利用者様の状態を 報告するなどして、医療との連携をとり、安心して過ご せるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に説明を行い、本人様や家族様の意向を伺ってい る。大漁変化があればその都度家族様や本人様と話し合 い、方針を共有している。また、見看りに対する知識を 深めるため、勉強会を実施し、チームケアができるよう 体制を整えている。また、医療機関との連携も図ってい く。 (外部評価) 看取りに関する指針を整備し、事業所としてできること を説明している。法人全体として多職種が共同体制のも とで利用者のサポートに取り組み、状態や必要に応じた 最適な支援へとつなげる強みがある。事業所で看取りケ アに対応するために、勉強会を開催し学びの機会を設け ている。利用者の状態に応じて家族や関係者とチームで 話し合いの機会を設け、納得が得られるように支援に努 めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルに沿って行う。定期的に勉強会を開き、職員同士で話し合うなど、全職員が対応できるように取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」として意識付けを行っている。年2回、防災訓練を実施している。また、風水害の訓練も行っている。地域総代等の参加協力を得ている。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いで防災訓練を昼と夜の設定で実施し、毎月事業所独自に防災にかかる勉強会を実施している。避難を妨げる不要なものが置かれておらず、避難経路の確認や地域住民に協力を得て訓練が実施され、運営推進会議では地域の災害に対する話し合いが行われている。老人保健施設、グループホームとの協力体制も心強い。備蓄品は老人保健施設で一括管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴や排泄時等は特に配慮し、声の大きさや声かけの仕方などに注意している。利用者様の人格を尊重し、集団の中での声かけ等において、プライバシーを傷つけないよう対応している。 (外部評価) 利用者の個人情報の取り扱いについて家族等に同意を得ている。また書類などは鍵付きキャビネットで適切に管理されている。声かけ等不適当な対応と感じられる場合は、職員同士で注意しあったり管理者が個別に指導し改善に努めている。	職員の多くは優しい口調で利用者を尊重する気持ちは伝わるが、管理者は常に取り組んでいるわけではないことに気づいている。利用者は職員の対応をよく見ているので、利用者を尊重した支援ができていのかどうか、強い口調や態度になってはいないかなど、職員自身振り返りや気づきの機会を設けるなどの試みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様との関わりを多く持ち、本人様の思いや希望を表現できるよう図っている。自己決定の困難な利用者様へは、日頃の仕草や表情から読み取り、対応できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのADLや好みなどを理解した上で、本人様の希望に合わせた暮らしができるように、レクリエーションや調理等の作業へ意欲的に参加できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人様の自己選択、自己決定を尊重し、気持ちよく日常生活が過ごせるよう支援している。月2回の散髪日を設けたり、季節にあった服装ができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理時には盛り付けや味付け等に参加して頂いている。月1回食事会を設け、利用者様の希望に沿った献立をたて、楽しみながら食事をされている。 (外部評価) 法人栄養士が献立を作成し、食材が届けられている。調理は各ユニット毎に職員が行っている。キッチンスペースは広く、数人で作業ができる調理台やシンクが複数備わっている。三角巾にエプロン姿の利用者が、にこやかに調理を楽しむ姿がある。毎月の食事会は、利用者の希望を取り入れてメニューを考え、買い物から調理までの一連の作業が楽しみとなっている。利用者が席に着いてから、個人毎の器に温かいごはんや汁物がよそわれて配膳されている様子を見ると、家庭的で嬉しい気持ちになった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士による献立表をもとに調理し、利用者様に合わせて提供している。食事量はその都度確認、記録に残している。水分は毎食時とその他活動後などに提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに声かけし、見守り介助にて口腔ケアを実施し、夜間は義歯を預かり毎日消毒している。歯科衛生士と連携し、口腔清掃や治療を行ってもらっている。口腔ケアセットは週1回消毒し、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様の状態に応じ、声かけや定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援してる。	
			(外部評価) トイレでの自然排泄を大切にしている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。利用者の状態により、オムツやリハビリパンツ、パッドや布パンツといった用品の選定をしている。習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実施し、現状が維持できるように努めている。トイレは清掃が行き届いており、臭気を感じず清潔感が漂うなど、利用者が気持ちよく使用できるよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の排便を把握し、便秘薬の服用や水分補給、トイレ時に腹部マッサージや日常の運動をし、便秘解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の体調や状況に応じて対応している。入浴中には入浴剤などを使用し、リラックスして入浴できるよう心がけている。	
			(外部評価) 各ユニットに家庭的な個別浴槽がある。原則週3回の入浴であるが、利用者や状況に合わせた柔軟な対応ができるよう入浴準備を行っている。ボディソープやシャンプーなどの洗面用具は個人持ちで、利用者の好みに応じている。入浴が大変苦手な利用者もいるが、苦手な面について受容し、誘い方やタイミングなど職員同士アイデアを共有しながら無理強いせず対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の上場に応じ、日中、休憩時間を設ける等している。また、ベッドや寝具、温度調節などを行い、気持ちよく休めるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員間の申し送りを行い、内服薬表を確認し、誤薬の無 いよう、全職員が内容を把握するように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとり無理の無い範囲で家事のお手伝いを して頂き、その都度お礼を伝え、役立つことの喜びや楽 しみを持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望に沿って、散歩や外気欲などをこまめに 行っている。また、月2回ドライブレクや買い物レクを 行い、気分転換を図っている。	
			(外部評価) 月2回のドライブレクリエーションを実施し、なるべく 利用者全員が戸外に出かけられるよう支援している。日 常的には1階テラスでの日光浴や近隣の散歩、見守り隊 としての小学生との交流などで気分転換している。家族 の協力を得て外出や外泊を楽しむ利用者もいるなど、行 きたいところへ行けるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) お小遣いは上限を設け事務所にて預かっている。必要な ときに職員管理のもと、買い物をして頂き、楽しみを感 じてもらえるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 利用者様の希望時にご家族様へ電話をかけたり、家族様 からの電話を取り次いだりしている。また、手紙を書い たりできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有スペースは、自然の光が差し込み明るく、景色や季節を感じられる。トイレは1日3回掃除を行い、衛生面にも配慮し、清潔を維持している。又、トイレや浴室などの利用中には、戸を閉め不快感を与えないようにしている。 (外部評価) 建物内の天井は高い造りで解放感を感じ、また利用者の集うリビングには大きな2面の窓があり、電車が通る様子や山並など絶景の眺望である。1階にあるテラスでは草花を育てたり、日光浴ができるなど気分転換が図れる。感染症対策として玄関先に消毒液などの設置、空気清浄機や加湿器を活用するほか、居心地よく過ごせるよう細目に清掃を実施するなど配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者様は共有空間で過ごされることが多く、利用者様同士で会話を楽しまれる。口論になりそうな際は、職員は仲裁に入り見守っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用していた寝具などを持参して頂き、備品などの位置については、ご家族様と相談し設置するようにしている。 (外部評価) ベッドやエアコン、椅子、飾り棚付きのクローゼットが備えられ、身の回りのものを持ち込むだけですぐに入居できるよう配慮されている。飾り棚を仏壇として利用したり、自宅で行っていたようにお祈りの習慣を続けたり、編み物の作成を楽しむなど、利用者それぞれが思い思いに居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりできる範囲で選択干しやたたみ、もやしの根とりや盛り付け等、お手伝いをして頂いている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200342
法人名	医療法人陽成会
事業所名	グループホーム ヒロセドワーエ
所在地	今治市国分7丁目5番11号
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが安心して生活が送れるように、こまめな声かけや、他職員と情報共有をしている。家族または病院等とも相談し、柔軟な対応ができるよう努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第59番札所国分寺に程近く、田園風景の中を行き交うお遍路さんに出会う地域に立地し、開設3年目を迎えた。母体法人は今治市内で地域医療を担う医療機関で、市内に特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウスなどを運営している。母体病院との万全の協力体制に加え、医療従事者の常駐する老人保健施設や経験を重ねるグループホームが向かいにあり、利用者や家族、従事する職員にも心強い安心感へとつながっている。近隣に住宅のほとんどない土地であるが、地域の代表である地区総代や民生委員には力強いサポートを得られている。開設以降続けている毎月の家族会の開催、家族アンケートの実施からは、日頃の交流に加え良好な関係づくりへの取り組みが実感でき、お世話になっているからこそ言いにくい家族の本音を引き出す工夫がある。今後は改善課題や職員のスキルアップに向けた取り組みながら、利用者とゆったり向き合う時間を確保し、グループホームならではのケアへとつながることに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します											
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセドゥーエ

(ユニット名) チェリー

記入者(管理者)

氏 名 別府 真由美

評価完了日 平成 29 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念をもとに「地域とともにあ なたとともに 笑顔の暮らし」を当施設の理念とし、 職員は入居者が安心して毎日を笑顔で過ごせるよう個 別ケアに努めている。 (外部評価) 基本理念と共に事業所独自の理念を開設時より大切に している。職員は朝礼時に唱和し、意識付けを行って いる。地域での笑顔ある暮らしの支援に向け、系列事業 所と共に協力し合い地域交流を図っている。検討すべ き課題について気付きを持ち、謙虚な姿勢で改善へと 取り組み実践へとつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 毎年近隣の綱敷天満宮への初詣や、地域住民の協力を 得て地方祭では神輿の来訪を実施している。また、自 治会に加入し、通学中の小学生の「見守り隊」として 地域へ貢献できるよう心がけている。 大きな行事では近隣の保育園児を当施設へ招き、交流 を図っている (外部評価) 田園地帯に立地するため、地域住民との気軽な近所 関係の構築が難しい一方で、先行する老人保健施設や グループホームへ協力いただく地域の代表である地区 総代や民生委員のサポートに恵まれている。小学生の 登下校の見守りや保育所との交流はあるが、今後はさ らに身近な関係を構築したいと希望し、地域行事には 積極的に参加する姿勢がある。今後も地域資源を活か した取り組みなど、事業所ができることを通し地域貢献 にも大いに期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 関連事業所と連携を取りながら、地域内の保育所・小 中学校との交流の場を設け、少しでも認知症の方がど のような生活を送っているのかなど理解へつなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、行事・研修報告 をすると共に、出席者との意見交換や、質問等を受け 付けている。今年度は出席者へのアンケートを実施 し、さらに運営推進会議が充実したものになるよう取 り組んでいる。 (外部評価) 家族、民生委員、地区役員、婦人会、高齢介護課職員 の参加協力を得て開催している。参加者は運営推進會 議への理解が深く、運営に関する関心が非常に高い。 事業所からの利用者状況や活動報告だけでなく、感染 症対策、防災対策、認知症ケアなど細部にわたる意見 が交換され、出された意見やアイデアを運営に盛り込 むことでサービスにつなげている。	運営に直結する意見交換の場として有意義に会議は進 行されているが、参加者が固定化の現状にあり、参加 呼びかけを多方面に広げて欲しい。家族アンケートで は会議の存在について理解できていないことが浮き彫 りになっており、参加してみたいと思わせるような魅 力的な会議の開催などを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において、ケアサービスの取り組みにつ いて報告し、意見交換をしている。また、どんな状況 でも協力が得られるよう、日頃より話しやすい環境作 りに努めている。 (外部評価) 高齢介護課職員には運営推進会議に参加を得ており、 運営に対する理解を得ている。会議では質疑応答に対 し、具体的なアドバイスをもらったり、相談があれば 行政としての意見を得ているなど、関係は密になって おり強固な連携が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 関連事業所と連携し、定期的に身体拘束についての勉 強会をしたり、外部の研修へ参加するなどし、全職員 が理解できるよう努めている。また、ケアにおいても 利用者の身体状況、日常生活を観察・把握した上で、 職員間で話し合い、拘束をしないケアの実施に努めて いる。 (外部評価) 法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 研修や勉強会の機会を設け、職員の正しい理解へとつ なげている。事業所へのアクセス道路は車の交通量も かなり多いため、テンキー等を用いたセキュリティ設 備を活用した安全対策をとっているが、職員が見守っ ている時は開放するなど、利用者や家族には説明し理 解を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に虐待についての勉強会を実施し、認識を深め、言葉遣いからケア一つ一つを取っても虐待ではないか、個々が意識して取り組み、職員間でも注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員間で制度への理解には差があるのが現状であるため、今後は外部研修等へ参加し新しい知識・情報を取り入れ、職員間でも報告や勉強会を実施し、全職員が理解できるよう努めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず2人対応している。十分な時間を取り、利用者様及び家族様が持つ不安や疑問点を尋ね丁寧に説明し、理解と協力が得られるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様からの意見や要望が出た場合には、どのように対応するか話し合い、全職員が把握できるよう伝達ノートを活用したりケアプランに盛り込んでいる。家族様へは面会時や電話等で日常の様子を伝え、意見や要望を伺ったり、家族アンケートや意見箱を設置するなどし、サービス向上・改善に努めている。	
			(外部評価) 利用者からは生活の中で意見や要望を聞いている。家族との良好な関係づくりには、電話連絡や面会時の会話、毎月開催される家族会を活用し、意見や要望を伺う機会としている。開設時より継続する家族アンケートは、無記名で実施することで、普段は言いにくい率直な意見が聞かれている。事業所が取り組むべき課題に気付きを持ち、運営に反映させるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会時に職員間で意見交換をしたり、業務上の改善案が出れば取り組み、評価している。 また、個々の相談なども時間をとり、代表者や管理者が丁寧に対応している。 (外部評価) 職員は幅広い年齢層の構成で、経験を問わず互いの関係を認め合っている。管理者は職員の力量を見極めながら、状態に応じて相談や助言を行い、優先すべきは利用者であるという気持ちにぶれがない。1階を管理者が、2階を計画作成担当者が阿吽の呼吸でまとめ、両者共に職員と同じシフトに就いているため、実情や思いの理解が深い。法人は就業環境の整備に努め、給与水準や休日、ストレスチェックなど職員がやりがいを持てるよう支援しており、今年度より人事考課も取り入れる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日頃の勤務状況や今何に取り組んでいるのか、どのような研修へ参加しているのかなど総合的に把握し、自己評価表なども活用し、各自が向上心を持てるよう促すと共に、環境や条件の整備にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々が希望した研修へ参加できるように、毎月研修案内を提供している。一人ひとり能力も違うことを理解した上で職員同士が現場で指導し合い、育てていけるよう取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 定期的の実施されるグループホーム交流会へ参加し、情報交換や同業者との悩みや問題点について話し合い、解消につなげたり、勉強会があれば参加した職員が持ち帰り全職員へ報告するなどし、サービス向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にアセスメントシートをもとに本人様の思いや不安点などを理解し、家族や担当ケアマネージャーからの情報も取り入れつつ、本人に寄り添ったケアを実施し、ゆっくりと信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始するにあたり、面会時にはこまめに声をかけ、家族様が困っていることや不安や心配な点は無いか確認し、ゆっくりと話を聞き、相談しやすい環境作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様・家族様と共に十分なアセスメントを行い、今どのようなサービスを必要としているのかを検討し、ニーズにあったサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家庭的な雰囲気作りを意識し、食事の準備から片付け、洗濯作業など、日常的なことも職員と行っている。また、利用者様同士でも助け合っていけるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には施設での生活状況から最近の出来事などを報告したり、本人様の思いや希望を伝えるなどし、家族様と本人様のつながりが途切れないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブレクでは思い出の場所へ出かけたり、馴染み深い町内を回ったりしている。知人の方も面会へ気安いような雰囲気作りをし家族様にも伝えている。また、外出・外泊なども促し、なじみのある方々と過ごせるように支援している。	
			(外部評価) 入居時に基本情報などを収集し職員間で共有し、本人の馴染みの関係や場所について理解している。事業所周辺に居住していた利用者もあれば、離れた場所からの利用者もあり、事業所での生活の中で生まれた利用者同士の新たな関係を良好なものへつなげようと努力している。家族や知人の面会の機会を大切にし、これまでの関係が途切れることなく継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の個性を尊重しつつ、全員が良い関係を築けるよう気配りし、孤立しないようきっかけ作りや仲介に入るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には本人様、家族様からの相談なども受け付けられることを伝えた上で、必要時には情報提供ができるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様と定期的にアセスメントを行い、個々の思いや希望を伺い把握できるよう努めている。 また、自分の意思表示やコミュニケーションが困難な方へは、特に日常生活の様子やしぐさを観察し、アセスメントできるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の生活歴を把握し、介護計画作成時には本人の希望をアセスメントシートにまとめ更新している。利用者の半数は認知症状の進行により思いを伝えることが困難な状況にあり、これまでの関わりの中での経験や記録、また家族協力を得て利用者本位のケアができるよう努めている。	職員は日々シフト毎の役割も懸命にこなす中、もっと利用者寄り添い、思いを引き出したいという気持ちを持っている。利用者一人ひとりとじっくり向き合う時間を確保し、利用者の思いにより深く沿えるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人様や家族様より生活歴や自宅での様子などを伺い、できる限りで情報収集し記録に残し、全職員が把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様個々のADLを把握し、1日の生活パターンやこだわりなどを観察し、把握できるよう努めている。 また、心身状態の変化が見られれば伝達ノートを活用し、全職員が把握できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のカンファレンスにて、本人様・家族様のご意見やご要望を伺い、介護計画に反映している。また、気づきシートを活用し、全職員が目標やケアプランに携わり、モニタリングの意見交換も行っている。 (外部評価) 職員担当制を敷き、担当職員が介護計画の作成、モニタリングまでの一連を担当することで流れをよく理解している。介護計画の見直し時には、利用者や家族とカンファレンスを開催し、意見や要望を話し合い議事録にまとめている。介護記録、経過記録シート、目標に沿った実践記録が的確にまとめられ、内容も充実し評価できる。	実践記録は必要な情報を端的にまとめ、介護記録に実践時の様子が詳細に記載されている。介護計画書と連動する一連の流れが大変スムーズで高いスキルを感じ取れる。根拠あるモニタリングへの材料が揃っているだけに、サービスを実施できたかできなかったかの評価になっている面が惜しまれる。利用者目線で達成可能な目標になっているか、解決すべき課題に対し具体的な記載になっているか再考して欲しい。記録を分析することで本人の満足度や達成感につながるやりがいある介護計画の作成へとつなげて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの日々の様子、変化、気づき、ケアプランの実践等を個別記録に記入し、職員間で情報共有している。 また、それによって介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の老健との交流を通じて、様々な催し物に参加したり、母体の病院からの診療等、事業所の多機能を活かした柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近接の国分寺や綱敷天満宮への参拝、保育所との交流、地区の自治体主催行事への参加等により、地域交流を図りつつ、利用者様の豊かな暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様には定期的な訪問診療や、随時往診を受けて いただいている。24時間緊急体制も確保されてい る。 また、本人様希望のかかりつけ医とも連携を図り、本 人様に合った医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 母体法人である医療機関をかかりつけ医とし、医療連 携体制として訪問看護ステーションを利用した日々の 健康管理には安心感が持てる。老人保健施設に常駐す る看護師からサポートを得られるため、緊急時対応が 心強い。往診は月1回から2回へと改定され、細目な 医療アプローチが期待される。急変時の対応につい て、わかりやすいフローチャートを作成し、認識不足 による対応の遅れがないよう改善に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の状態変化時には記録に残し、全職員が情報 を共有し、広瀬クリニック、訪問看護ステーションヒ ロセへ連絡し、指示を得たり受診できるよう連携が取 れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医と連携し早期退院に向けて情報交 換等に努めている。退院後復帰した際は、利用者様の 状態報告や相談で病院との連携を図っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に説明を行い、本人様の意向を伺っている。体 調変化時に、その都度本人様や家族様と話し合い、方 針を共有している。 また、職員の看取りに関する知識向上のために勉強会 を行い、チームケアの体制を整えている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を整備し、事業所としてできるこ とを説明している。法人全体として多職種が共同体制 のもとで利用者のサポートに取り組み、状態や必要に 応じた最適な支援へとつなげる強みがある。事業所で 看取りケアに対応するために、勉強会を開催し学びの 機会を設けている。利用者の状態に応じて家族や関係 者とチームで話し合いの機会を設け、納得が得られる ように支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルをもとに定期的に勉強会を実施し、全職員が対応できるよう、ステーション内に急変時の一覧法を貼り出している。また、応急処置については外部研修へ参加するなどして、報告会も実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」として再度マニュアルや消火器・避難経路の確認をすることで、全職員に意識付けをしている。 避難訓練を年2回行い、地域の総代の方にも参加していただくなど、協力体制が築けるよう努めている。	
			(外部評価) 年2回、消防署立ち合いで防災訓練を昼と夜の設定で実施し、毎月事業所独自に防災にかかる勉強会を実施している。避難を妨げる不要なものが置かれておらず、避難経路の確認や地域住民に協力を得て訓練が実施され、運営推進会議では地域の災害に対する話合いが行われている。老人保健施設、グループホームとの協力体制も心強い。備蓄品は老人保健施設で一括管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 更衣や排泄、入浴の際、プライバシーに配慮したケアを行っている。声かけやコミュニケーションを図る際には、個人を尊重した丁寧な言葉かけをし、声のトーンや話すペースなどにも気をつけている。	
			(外部評価) 利用者の個人情報の取り扱いについて家族等に同意を得ている。また書類などは鍵付きキャビネットで適切に管理されている。声かけ等不適当な対応と感じられる場合は、職員同士で注意しあったり管理者が個別に指導し改善に努めている。	職員の多くは優しい口調で利用者を尊重する気持ちは伝わるが、管理者は常に取り組んでいるわけではないことに気づいている。利用者は職員の対応をよく見ているので、利用者を尊重した支援ができていのかどうか、強い口調や態度になってはいないかなど、職員自身振り返りや気づきの機会を設けるなどの試みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の心に寄り添い、思いや希望を表現できない方についても、表情やしぐさを見て理解できるよう気を配っている。 また、自己決定できるよう、選択肢をいくつか挙げてみるなど、生活の幅を広げられるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりに寄り添ったケアを心がけ、その日の体調や気分などを把握し、負担無く生活が過ごせるよう、個々に合ったケアの提供と希望に沿った支援ができるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎月2回の散髪では、髪が伸びている方へ声を掛けたり、希望者に実施している。 服装が乱れていたり重ね着を多くしている方にはさりげなく声を掛け直すなど、入居者様の身だしなみへの関心が損なわれないよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を毎食掲示し、何を作るのかなど利用者様へ分かりやすくし、調理へ参加したり個々に合わせて食べやすい形状にするなど、食欲を促せるよう心がけている。 毎月1回「お楽しみ食事会」を実施し、利用者様の好みも取り入れつつ献立を考える機会を設けるなど、楽しめるよう支援している。 (外部評価) 法人栄養士が献立を作成し、食材が届けられている。調理は各ユニット毎に職員が行っている。キッチンのスペースは広く、数人で作業ができる調理台やシンクが複数備わっている。三角巾にエプロン姿の利用者が、にこやかに調理を楽しむ姿がある。毎月の食事会は、利用者の希望を取り入れてメニューを考え、買い物から調理までの一連の作業が楽しみとなっている。利用者が席に着いてから、個人毎の器に温かいごはんや汁物がよそわれて配膳されている様子を見ると、家庭的で嬉しい気持ちになった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量を記録し、摂取状態を把握できるようにしている。水分補給も毎食時とコーヒータイムや活動後などこまめに促し、個別に水分量をカルテに記録し、1日の摂取量を把握できるようにするなど、十分に注意を払い支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを促し、個々の能力に合わせ見守り・介助している。うがいの困難な方へはスポンジ型の歯ブラシを使用するなど清潔保持に努めている。また、口腔内のトラブルがあれば本人様、ご家族様の意向に添って訪問歯科での往診も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的なトイレ誘導に限らず、個々の排泄パターンを把握したり、車椅子の方でも座位が維持できれば、トイレでの排泄を促すなど、オムツだけに頼らないよう意識して支援している。	
			(外部評価) トイレでの自然排泄を大切にしている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。利用者の状態により、オムツやリハビリパンツ、パッドや布パンツといった用品の選定をしている。習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実施し、現状が維持できるように努めている。トイレは清掃が行き届いており、臭気を感じず清潔感が漂うなど、利用者が気持ちよく使用できるよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の体操に加え、散歩へ出るなど適度な運動を実施し、個々の便の状態に合わせ医師へ相談して下剤の服用や、家族様の協力を得てヤクルトを持参していただくなどし、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調面にも注意しつつ一人ひとりに声をかけ、良いタイミングで入浴できるよう心がけている。また、入浴剤も活用し、色や香りなども楽しみつつ、リラックスした時間になるよう努めている。	
			(外部評価) 各ユニットに家庭的な個別浴槽がある。原則週3回の入浴であるが、利用者や状況に合わせた柔軟な対応ができるよう入浴準備を行っている。ボディソープやシャンプーなどの洗面用具は個人持ちで、利用者の好みに応じている。入浴が大変苦手な利用者もいるが、苦手な面について受容し、誘い方やタイミングなど職員同士アイデアを共有しながら無理強いせず対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人様の体調に合わせて休息の声掛けをし、室内温度の管理を行うなど安心して、休める環境や雰囲気作りを心がけ支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 配薬チェック表を作成し、どの薬をいつ内服しているのか確認しながら薬をセットしたり、内服に注意が必要な物は申し送りし、職員が理解し把握できるようにしている。服薬時には名前と日付を声に出して渡すなど、誤薬の無いよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝体操の時間を設け、身体を動かすことで気分転換にもなり活力となるよう支援している。個々がその時々で活躍できる場を作り、達成感が得られるような声かけをするなど、生活支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月買い物ドライブレクの日を設けたり、利用者様の外出の希望はできるだけ対応できるようにしている。家族様とも外出しやすいよう、積極的に勧めたり、散歩や外へ出て、外の空気に当たる機会を持てるよう支援している。 (外部評価) 月2回のドライブレクリエーションを実施し、なるべく利用者全員が戸外に出かけられるよう支援している。日常的には1階テラスでの日光浴や近隣の散歩、見守り隊としての小学生との交流などで気分転換している。家族の協力を得て外出や外泊を楽しむ利用者もいるなど、行きたいところへ行けるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは事務所で管理しており、必要時にはその都度準備し、買い物ができるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望があれば家族様へ電話をしたり、手紙を書いたりできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所は広く動きやすくなっており、清潔感もある。居間はくつろげるよう広く使い、外からの光も良く入り温かさを感じられる。浴室やトイレには戸があり、プライバシーを守りつつ落ち着いた場所作りができるよう努めている。 (外部評価) 建物内の天井は高い造りで解放感を感じ、また利用者の集うリビングには大きな2面の窓があり、電車が通る様子や山並など絶景の眺望である。1階にあるテラスでは草花を育てたり、日光浴ができるなど気分転換が図れる。感染症対策として玄関先に消毒剤などの設置、空気清浄機や加湿器を活用するほか、居心地よく過ごせるよう細目に清掃を実施するなど配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中でも個々がリラックスして過ごせる雰囲気作りと、利用者同士の関わりが持てる場となるよう気を配っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅での様子を伺い、希望があれば自宅から家具・小物を持参していただいたりと、落ち着ける場所作りには配慮している。 (外部評価) ベッドやエアコン、椅子、飾り棚付きのクローゼットが備えられ、身の回りのものを持ち込むだけですぐに入居できるよう配慮されている。飾り棚を仏壇として利用したり、自宅で行っていたようにお祈りの習慣を続けたり、編み物の作成を楽しむなど、利用者それぞれが思い思いに居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様ごとにできる事、できない事の見極めをし、見守りの中、ゆっくりと洗濯物干し・たたみ、食事の準備等、自立した生活ができるよう支援している。	